

2024. 5. 29

2024年5月の金融経済概況のポイント

■全体感

- 今月の総括判断は、「一部に弱めの動きがみられるが、持ち直している」とし、前回の「持ち直している」から引き下げました（判断の引き下げは、2022年2月以来27か月振り<2年3か月振り>）。

■個人消費の動向

- 個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、堅調に推移しています。

（財消費関連）

- 大型店売上高は、増勢が鈍化しています。家電は、緩やかに持ち直しています。
- 乗用車販売は、下げ止まっています。

（観光関連<インバウンド需要を含む>）

- 観光・旅行は、国内のペントアップ需要の顕在化やインバウンド需要の改善を受けて回復しています。道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数合計は、改善を続けています。また、ホテル・旅館宿泊客数、旭川地区のホテル客室稼働率については、前年を上回っています。このほか、観光施設（旭山動物園、層雲峡、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリー、ウトロ温泉）の入込客数合計についても、前年を上回っています。

■公共投資の動向

- 公共工事請負金額は、月による振れはみられますが、引き続き高水準で推移しています。

■住宅投資の動向

- 新設住宅着工戸数をみると、持家、分譲、貸家のいずれも減少しています。

■雇用情勢

- 有効求人倍率は、このところ前年を下回って推移しているものの、企業の人手不足感是非製造業を中心に強いことなどから、雇用情勢は緩やかに改善しているとみられます。

以 上